

東光原

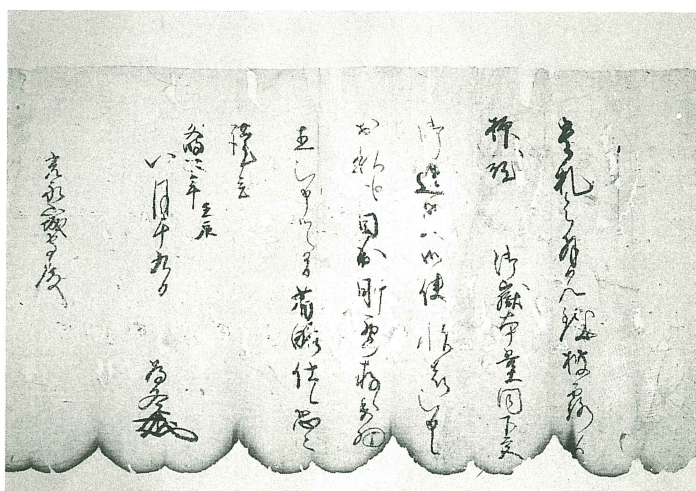
熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.10, Feb. 1995

● イリノイ大学(アメリカ合衆国)の図書館を利用して

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介 9

● 重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)



[A] 城為冬書状

貴札令拜見致披露候、
 抑就 御嶽本堂同下宮
 御造營 御使愧喜被申候、
 於私も目出肝要存候、委細
 直被申候之間、省略仕候、恐々
 謹言、

(異筆) (四)

『文明』年正月
八月十九日

為冬(花押)

光永山城守殿

イリノイ大学(アメリカ合衆国)の図書館を利用して

マスデン 眞理子

私は1986年から約3年間大学院生としてイリノイ大学の図書館を利用しました。この大学の図書館はハーバード大学とスタンフォード大学に次いで、アメリカの大学の図書館としては3番目に規模の大きいもので、その蔵書数はおよそ700万冊とされています。蔵書数が多ければそれだけ本を入手しやすくなるのは当然ですが、この図書館が大変利用しやすい主因は、むしろ図書館サービスにあると言えらると思います。

イリノイ大学にはinter-library loanというシステムがあり、自分の大学の図書館に無い本を他大学から借りることができます。熊本大学でも相互貸借という同様のサービスが受けられます。しかし、両者の大きな違いは、本学の相互貸借では依頼した本の郵送にかかる切手代金(一冊に約1300円)はすべて個人負担となっている点です。イリノイ大学ではその切手代金は大学が負担しており、これを利用する個人はたとえ何冊依頼しようと全く無料なのです。因にイギリスのグラム大学でもこのようなサービスは無料で受けられるようで、熊本大学に留学中のグラム大学からの学生が相互貸借で読みたい本を入手することはできたものの、3冊借りると4千円近くになったのに驚き、「これでは学生は思うように本を注文できない」とこぼしておりました。相互貸借にかかる切手代金はかなりの金額で、現金収入の少ない大学院生などにとっては研究活動に支障をきたすのではないのでしょうか。日本の大学院生にとっては夢のような話ですが、私の友人がイリノイ大学から日本の国会図書館に論文のコピーを依頼した時も、費用はすべて大学が払いました。

アメリカの大学は一般に日本とは違って、各教官が校費で購入した本を研究室に置いておくことはできません。もちろん、教授が長期に渡って借り出すことはできますが、それはあくまでも図書館から借りているという手続きをふむわけで、本の管理はすべて図書館員が直接行います。これは教官にとっては不都合が多いかもしれませんが、学生が教官の研究室所蔵の本を読みたい場合、わざわざ面識の無い教官の研究室に赴くのは心理的にも負担ですし、教官にしても研究室の本の貸し出しを管理するのは厄介なことでしょう。

イリノイ大学の図書館には学生が検索用に使えるコ

ンピューターがおよそ50台あるので、いつでも気軽に図書の検索ができます。コンピューターによる検索に慣れていない学生は「図書館ツアー」に参加すれば、図書館員が丁寧に教えてくれます。このツアーでは、ほかにもCD-ROMを使つての新聞や雑誌の記事、論文等を年月を絞ってキーワードで検索する仕方などを教えてもらえます。このような図書館ツアーは渡米して間もない留学生には特にありがたいものです。

図書館のコンピューターでは本の検索だけでなく、貸し出しの手続きをすることもできます。利用者は自分の名前とID番号を入力すると、自分のcampus address(学生が所属する学科に各学生専用の郵便受けがある)に依頼した本を無料で送ってもらうことができます。これは特にinter-library loanで本を依頼した場合は、その本の到着時に再度図書館まで足を運ぶ手間が省け、大変便利なサービスです。このサービスはコンピューターを使わず電話で図書館の参考係に直接お願いすることもできます。図書の貸し出し期間は2週間ですが、これを更新したい時もわざわざ図書館に行かずに電話で借りている本のcall numberと自分の名前を言えば済みます。

授業で学生に読ませたい参考文献は、図書館である期間中on reserveにしてもらいます。このon reserveというシステムは、学生がその参考文献を借り出すことはできませんが、1冊につき2時間図書館内でその文献を読んだりコピーすることができるというものです。On reserve にしておくことで、クラスの学生全員が図書館でその文献を見る機会を確保できるわけです。

その他、学生としてイリノイ大学の図書館で勉強しやすかった何よりのサービスは開館時間が長いことです。金曜と土曜は夜9時まででしたが、それ以外の日は毎晩12時まで開いていましたから、授業の予習なども図書館ですることができます。また、図書館内にはキャロルと呼ばれる学生の自習用の個室があり、学生はこれを申し込めばだれでも自分専用はこの個室を使うことができます。この個室は机と小さな本だながやっと入るくらいの狭いものですが、鍵がかかりますから自分の本や図書館から借りている本などを置くことができます。このように図書館の中に学生が自

分だけのスペースを持つことができるのは、かなり贅沢なことでしょうが、だからこそ図書館が居心地のよい場所となり、自然に書物に親しめるのではないのでしょうか。

私がイリノイ大学で勉強した3年間は経済的にはぎ

りぎりでしたが、このような行き届いたサービスを図書館から平等に受けることができたからこそ、精神的に豊かな日々を送ることができたのだと思います。

(マスデン まりこ 文学部助手 留学生担当)

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介 9

重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

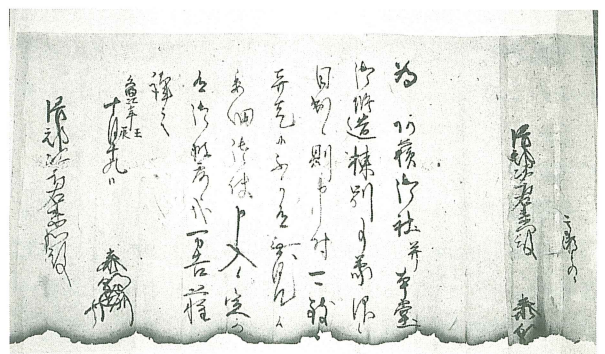
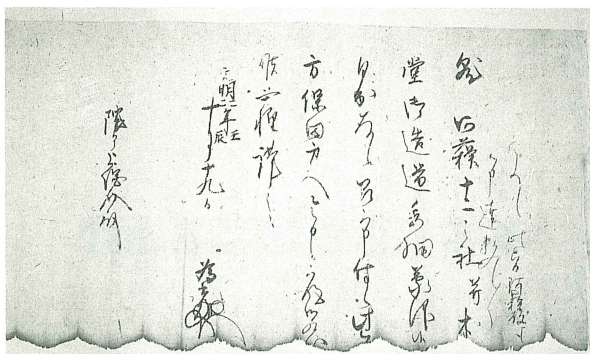
工 藤 敬 一

肥後一宮である阿蘇社の造営は、国司の管理下に33年に一度の社領の神税による正殿造営と、一国の陳別銭による神宝の調進が、同時になされるのが原則であった。鎌倉時代最末期の元徳元年(1329)から正慶元年(1332)にまたがる造営については、かなり具体的にその実態を示す史料が遺っており、故杉本尚雄博士によってその概要がまとめられている(『中世の神社と社領』504~511頁)。ここに紹介するのは、それから140余年後の文明4年(1472)の「御岳本堂」(山上の上宮)と下宮(阿蘇十二社)の修造に関する史料である。

宝徳3年(1451)の北朝系大宮司惟郷の主導による両

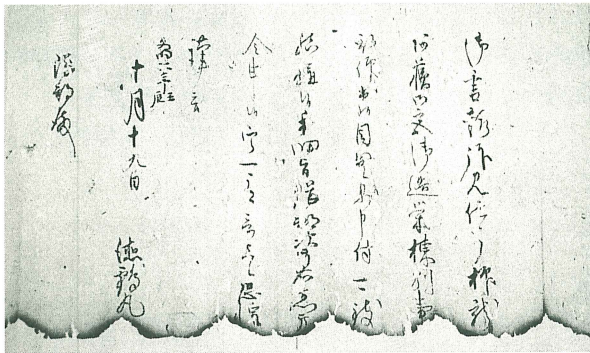
系の統一から20年、惟郷の子惟忠は、肥後の守護菊池重朝に、長らく荒廃したままであった「御岳本堂上茸并下宮」の修造を使者を遣して申し入れた。かつての国司の権限は、南北朝期以降事実上守護に継承されていたからである。重朝は家臣中のおもだった者(=老者)と相談し、諒承の旨を返事した。[A]は老者の一人城為冬が、大宮司の有力家臣である光永山城守にその旨を伝えたものである。この時重朝は修造の費用を一国の棟別銭によって確保する方針を打ち出し、10月23日次の書状を惟忠に送った。

阿蘇十二の御社ならびに本堂修造の事、先度承わり

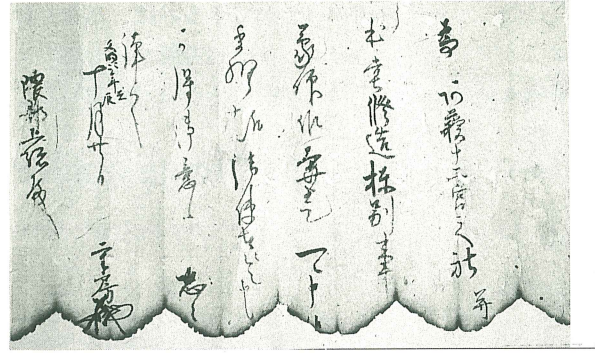


[B] 宇土為光書状
(紙切封)
(推忠)
尚々此旨阿蘇殿へも御申達願入候へ
 就 阿蘇十二之社并本堂御造遣、委細蒙仰候、目出存候、即可申付候、此旨方保田方人ニ令申候、可得御察候、恐惶謹言、
(異筆) (四)
「文明二年(1472)十月十九日
 限部上總介殿
 為光(花押)

[C] 高瀬秦朝自筆書状
(初封ハシ)
(異筆)
 限部次郎右衛門殿 秦朝
 為 阿蘇御社并本堂御修造棟別事、蒙仰候、目出候、則申付、可致奔走候、不可有無沙汰候、委細御使申入候、定可有御披露候哉、万吉、恐惶謹言、
(異筆) (四)
「文明二年(1472)十月十九日
 限部次郎右衛門殿 秦朝(花押)



[D] 肥前徳鶴丸書状
(折封ウハカ)
 肥前 肥前
限部殿 徳鶴丸
 御書趣拝見仕候了、抑就
 阿蘇御宮御造栄棟別事
 被仰出候、目出候、則申付、可致
 結構候、委細旨、限部次郎右衛門方
 令申候、定可有言上候、恐惶
 謹言、
(異筆一四)
「文明二年壬」
 十月十九日
限部殿
 徳鶴丸



[E] 託磨重房書状
(異筆一四)
「文明二年壬」
 十月廿日
限部上総殿
 重房(花押)
 為 阿蘇十二宮之社并
 本堂修造棟別事、
 蒙仰候、奔走可申候、
 委細之趣御使者令申候、
 可得御意候、恐々
 謹言、

候、先例の様存知無きの由古老の者申候、然りと雖も、我等別して奔走を為し、方々の催促を致し候、返事同壁書の案、御披見のためこれを進め候、球磨・八代・天草以下返事到来候はば、重てこれを進ずべく候、若不沙汰の方候はば、其様より御催促目出べく候、諸事後信を期し候、恐々謹言(原和様漢文) 老者の中には「先例の様存知無し」として難色を示す者もあったが、重朝は「別して奔走催促」することを約し、無沙汰の者には大宮司からも催促して欲しいといっているのである。これまでも神宝の費用には棟別銭を充てるのが先例であったが、社殿の修造についてはこれが初めてであったからである。

重朝は重臣の一人限部上総介(次郎右衛門)を修造奉行に任命し、棟別銭の賦課を国中の国人領主達に周知させた。[B]・[C]・[D]・[E]は、いずれもそれをうけて諒承の旨を返事した国人達の書状である。宇土為光は重朝の叔父で、宇土を苗字とする有力国人、高瀬泰朝も高瀬(玉名市高瀬港)を領する菊池一族の有力者、肥前徳鶴丸は、建武政権から肥前守に補任された菊池武澄の系統(肥前家)の名跡を継いだ菊池為安(重朝の叔父)の子息と推定され、託磨重房も重朝の叔父である。この外正文は天保7年(1836)の火災で焼失して遣っていないが、菊池武明も同様の返事を送っている。これら菊池一族が直ちに諒承の返事をしたのに対して、球磨の相良為継や八代の名和顕忠はすぐには応ぜず、大宮司惟忠の方からさらに催促を加えねばならなかつ

た。守護菊池氏の権威は大名家を指向する遠隔の有力勢力には、ストレートには通じなかったのである。なお、掲出した文書はすべて料紙の下部が焼けている。これも天保7年の火災の際に痛んだものである。(くどう けいいち 文学部教授 国史学)

本学教官寄贈著書紹介

- 上西川原 章 教授(養・独文学)
 ゲーテ時代のひとつの断面
 一自伝「人生の有為転変」一
 上西川原章訳 三修社 1994.11
- 西 成彦 助教授(文・比較文学)
 モダニズム研究
 モダニズム研究会著 思潮社 1994.3

平成6年度第2回総合目録データベース実務研修会に参加して

成 田 和 則

平成6年11月14日から12月2日までの3週間、学術情報センターにおいて、平成6年度第2回総合目録データベース実務研修会が開催された。

この研修会は「目録所在情報サービスを利用している図書館において、目録担当者の指導、講習会の講師等を行う高度な知識と技術を有する指導者の養成を目的とする。」ということで、毎年2回開催されている。そして今回、12名の研修者の一員として、参加させて頂いた。

研修は、図書・雑誌レコードの総論的講義、目録実務上の課題について、特論として「電子図書館」・「ネットワーク」・「学術情報センターの概要と今後の情報サービスの在り方」の解説、班別の共同討議(発表)、それに国立国会図書館・TRC・慶応義塾大学藤沢メディアセンター・電気通信大学の見学といった内容であった。

研修期間中、折に触れ耳にした言葉(キーワード?)が、インターネット、XUIP、そして書誌調整である。世界的にインターネットが普及した現在、国立大学における学内LANの急速な整備と相俟って、インター

ネットを利用した情報サービスが盛んになってきたことや、そのインターネット上の情報を検索するためのGUIツールのひとつであるMosaicについて、いろいろな所で話題になった。また、XUIP(Unix-User-Interface-Program)についてもNACSIS-CAT接続館の学内LAN導入等による通信環境の変化や次期の図書館システムを意識した会話の中にはよく登場した。書誌調整については班別討議の標題として扱ったことでもあり、その発生原因の分析や事務手続きの効率化等、話し合う機会を持つことができたのは、とても意義深いものであった。

この研修会に参加して、総合目録データベースを形成するうえでは、その一翼を担う者として、正確で品質の高いレコードの維持と重複書誌は作らないということの重要性を、改めて思い知らされた気がする。

最後に、学術情報センターや各見学機関の皆様、それに一緒に研修に参加された11名の方々のおかげで、充実した研修生活を過ごすことができたことを心から感謝したい。

(情報管理課 目録係)

平成6年度第2回情報ネットワーク担当職員研修(ネットワーク入門)に参加して

川 内 野 祐 子

この研修は文部省と学術情報センターの共催によるもので今年度は「ネットワーク入門」「ネットワーク管理」が各々2回開かれます。私が参加したのは入門の第2回で、全国の大学、研究所等から40名の参加がありました。参加者の職種は情報処理センター、図書館、その他と異なりますが、現在もしくはこれからネットワークに携わる者の基礎として、ネットワークの概要やUNIXの基本操作を学びました。

研修期間は12月12日から12月16日までの5日間で、2日間はネットワーク、TCP/IP、インターネットについての講義が、残り3日間はUNIXを使って

次のような実習が行われました。

- ・UNIX入門I～II(1日)
システムの起動からシェルの働きまで
- ・viエディタ(0.5日)
- ・UNIXネットワーク機能I～III(1.5日)
ネットワークのコマンド、分散処理、等

図書館はシンポジウムのテーマに取上げられたようなUNIX移行を控えています。研修では講義・実習に他に研修生間で意見交換ができたことも有意義なものとなりました。

(情報管理課 目録係)

第7回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)報告

川内野 祐子

平成6年11月10日～11日の2日間、岡山大学において「ネットワークと図書館情報：利用者の期待にどのように応えるか」をテーマに西日本地区の40大学が参加するシンポジウムが開催されました。これは「ほぼ全国的に整備された学内LAN及びネットワークに対して、図書館側はどのように活用するかをハード・ソフトの両面から考えよう」というものです。

第1日目は基調報告、特別講演、それと1日目のサブテーマ「ネットワークを利用した図書館サービス及び業務」に基づく事例が2件、①OPAC、②UNIX版CD-ROMのネットワークによる検索システムについてが報告されました。

第2日目はサブテーマを「図書館システムのワーク

ステーション化：その展望と課題」とし、1日目同様事例報告と2日間をまとめる全体討議がありました。事例では①ワークステーションへすでに移行した例、②③移行を近々に控える大学から移行への取り組み等が報告されました。全体討議ではCD-ROM(MEDLINE)の利用に関する事、システム担当者の要員確保・養成、情報処理センターとの協力等が話し合われました。参加している各大学とも「学内LANでの情報提供」「図書館システムのワークステーション化」は当面する課題であり様々な質問、意見が出されました。
(情報管理課 目録係)

第11回特殊資料展・講演会を開催

中央図書館では平成6年10月30日(日)から11月1日(火)までの3日間「肥後の博物学」をテーマに第11回熊本大学附属図書館特殊資料展を開催しました。

今回は永青文庫、薬学部などの協力を得、関連資料40点を展示しました。

多くは「肥後の博物学」の基礎を築いた六代藩主・細川重賢時代の写生帖で、中でも特に傑出していたのが、既に絶滅したと言われている矢部郷で捕獲されたニホンオオカミの図や爬虫類の瓶入の標本などが描かれた「毛介綺煥」、昆虫の変態を描いた「昆虫胄化

図」、「虫類生写」などの動物図譜やトウガラシ52種の図がある「百卉俛状」、肥後花菖蒲89種が描かれた「群芳帳」「牡丹・芍薬生写」などの植物図譜で、極彩色の美しい精密な描写に観察記録などを注記した芸術的にも学術的にもきわめて価値の高い資料とされているものです。

それらの資料を前に参観者の感嘆の声が多く聞かれました。

その他参勤交代の途次に採集したと言われる「押華帖」や薬学部所蔵の「本草綱目」「本草図譜」などの貴重な資料と共に充実した展覧会となりました。

中日の10月31日(月)には図書館会議室において教養部今江正知教授による公開講演会「肥後の博物学」が行われました。

「博物学」は自然に対する好奇心、“やじ馬根性”から発するという今江教授の熱の入った興味深い講演に聴衆者は引き込まれました。

又開催期間中ロビーにおいて、放送教育開発センターの協力で作成された「沖縄風俗絵巻」のレーザーディスクが常時放映され、入館者の興味を引きました。

(情報サービス課 参考係)



中央館に「身障者用施設」完成 ～スロープ エレベーター トイレ～

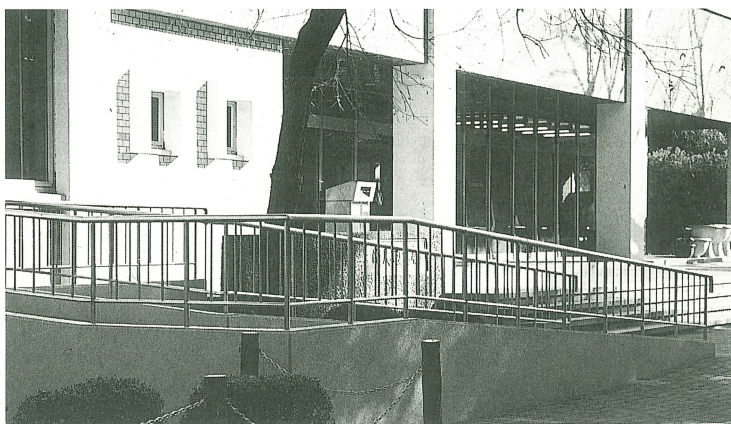
中央館では平成6年10月11日、かねてより工事中であった身障者用トイレとスロープが完成し、すでに8月初めに完成していた身障者用エレベーターとあわせ、より便利なものとなりました。以前は車イスの方が入館するのでさえ、玄関の段差のためにたいへんなご迷惑をかけていましたが、これによって身障者の方にも気軽に利用していただけるようになることを期待しています。

図書館への入館は、玄関脇に設けられたスロープから自動ドアを通して、スムーズにできるように変わりました。エレベーターは中に手すりを設けたほか、身障者用のボタンを使うことで、通常よりもゆっくりと昇り降りするようになっています。トイレはドアの開閉と同時に点灯、消灯するしくみで、車イスの方でも楽に移動できるよう、十分な広さを確保してあります。また、緊急の場合でも中から職員を呼び出せるような配慮がなされています。

これまで利用した方々の評判は良く、以前に比べ図書館が身近になったと好評です。

図書館としては、今後、身障者用の閲覧机などの設置をはじめとして、さらに利用者の方に使いやすい図書館となるようサービスの充実に取り組んでいきたいと考えています。

(情報サービス課 閲覧係)



学術雑誌目次速報データベースについて

学術情報センターの新規事業として、昨年11月より「学術雑誌目次速報データベース」のサービスが開始されました。このデータベース(DB)は、日本国内で刊行される大学等の紀要類、学協会誌、商業誌などの学術雑誌すべてを対象とし、その目次情報を速報的に収録するものです。

形成されたDBは、学術情報センターの情報検索サービス(NACSIS-IR)のDBの一つとして公開され、研究者の利用に供する事を目的としています。

大学、短大、高専、共同利用機関など、全国で千以上の機関で刊行される紀要類と学内の学協会誌で刊行する学協会誌について、初めての網羅的かつ速報性を持

った目次情報DBが形成されることとなり、今後はさらに、大学の学協会以外で刊行される学協会誌や商業誌についても、順次収録を図って行くよう計画されていますので、全国の研究者の研究・教育活動の支援に大いに役立つものと思われれます。

熊大図書館でも今年4月の入力開始をめぐりに準備を進めております。つきましては、本学で刊行されている学術雑誌を把握するため、1月～2月にかけてアンケート調査を予定しておりますので、その際にはご協力をお願い申し上げます。

(情報サービス課 学術雑誌係)

保健医療の国際交流に協力

医学部分館はいま、国際協力事業団の依頼による開発途上国保健医療専門家のための集団研修「第6回感染症診断の技術と管理」コース(財団法人国際保健医療交流センター主催 H.6.10.31~H7.4.16)に協力しています。

これは、「発展途上国における感染症診断に関する中心的な役割を果たしているラボラトリーの中堅技術者に、最新の細菌の分離法、同定技術、および検査試薬、培地の検定」などの技術を与えることを目的として、さまざまな条件に恵まれている熊本市で平成元年から開催されているものです。

今回も他の機関とともに、各国の研修生におおいに利用してもらいたいと願っています。

(医学部分館 運用係)

UNIX版OPACについて

熊本大学の学内LAN(KUIC)が昨年4月から稼動し、より自由度の高い情報基盤環境となりました。図書館でもKUICに接続できるパソコン等であれば、機種にとらわれず自由に図書館の目録情報が検索出来るよう、UNIXベースによるOPACサービスを準備中です。2月中に完成させ、3月にはご利用いただけるよう予定しております。手作りのDBを1日もはやくサービス開始が出来るよう、若い職員が頑張っておりますので、もうしばらくお待ち下さい。

(OPAC プロジェクト)

編集後記： 阪神大震災が勃発した1月17日は、この原稿の編集の真っ最中でありました。時間のたつごとに犠牲者の数が増え恐怖さえおぼえる次第です。被害者の方には心からお見舞い申し上げます。

阪神地区には、生活の場を失い、やむなく帰郷または避難している学生諸君も多数あるようです。図書館としてはこのような学生にも、本学学生同様可能な限り勉学上の便宜を図りたいと思っております。

皆様のご協力とご鞭撻を得てこの館報もやっと10号を迎えました。まったくの白紙から出発し、右顧左眄の状態をまだ抜け切れない有り様ですが、編集委員一同頑張っていくつもりです。

日誌 (平成6. 9. 1 ~ 12. 28)

- 9. 8 附属図書館委員会
- 9. 21 九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡
~22 会議(於宮崎)
- 9. 29 附属図書館係長会議
- 9. 30 学術雑誌目次速報データベース入力説明会
(於福岡)
- 10. 4 古典籍研修会
- 10. 6 学内LAN(KUIC)に関する事務打合せ
- 10. 18 古典籍研修会
- 10. 30 第11回熊本大学附属図書館特殊資料展
~11. 1
- 11. 10 第7回国立大学図書館協議会シンポジウム
~ 11 (於岡山)
- 11. 10 附属図書館係長会議
- 11. 14 平成6年度第2回総合目録データベース
~12. 2 実務研修会(於東京：学情)
- 11. 22 ネットワーク調整委員会
- 11. 24 資料保存に関する事務打合せ(於福岡)
- 12. 6 古典籍研修会
- 12. 12 熊本県図書館整備総合推進事業
図書館ネットワーク委員会
- 12. 12 情報ネットワーク担当職員研修
~16 (於東京：学情)
- 12. 15 附属図書館係長会議
- 12. 20 古典籍研修会

東光原—熊本大学附属図書館—第10号

平成7年2月

編集発行 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪2丁目40番1号

TEL (096) 342-2273

FAX (096) 345-9087